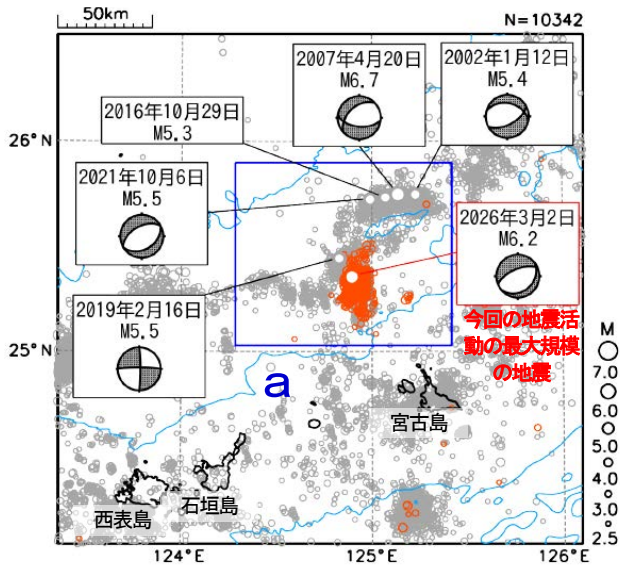


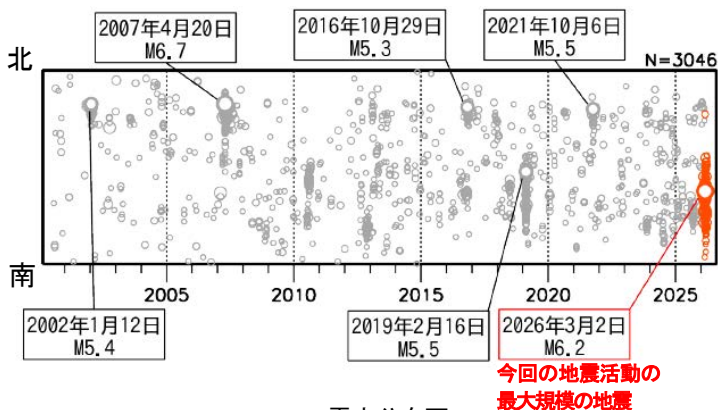
宮古島北西沖の地震活動

震央分布図
 (2000年7月1日～2026年3月31日、
 深さ0km～50km、 $M \geq 2.5$)
 2026年2月26日～3月31日の地震を赤色で表示
 図中の発震機構はGMT解

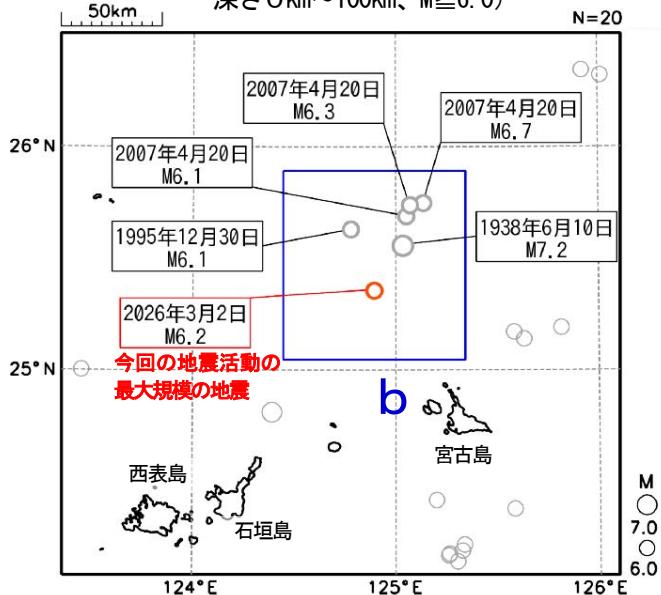


図中の水色の等値線は、水深1500mを示す

領域a内の時空間分布図 (南北投影)
 (2000年7月1日～2026年3月31日)



震央分布図
 (1919年1月1日～2026年3月31日、
 深さ0km～100km、 $M \geq 6.0$)

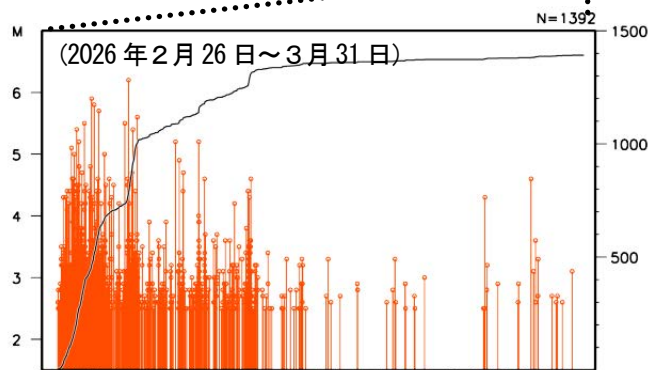
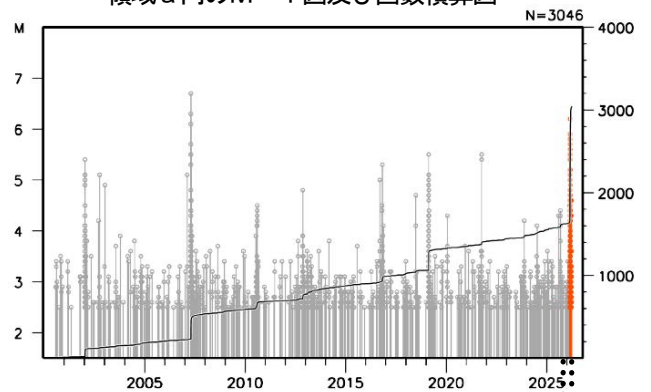


宮古島北西沖では、2026年2月26日から地震活動が活発となり、2月26日から3月31日までに震度1以上を観測する地震が32回（震度3：1回、震度2：13回、震度1：18回）で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は3月2日19時39分に発生した $M6.2$ の地震（最大震度3）で、発震機構（CMT解）は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型で陸のプレート内で発生した。

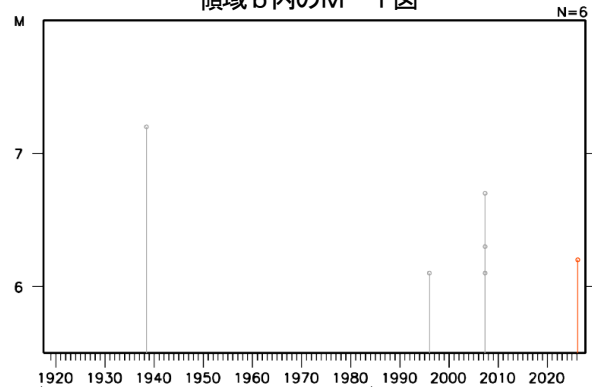
2000年7月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、 $M5.0$ 以上の地震活動が時々見られる。2007年4月20日には、 $M6.7$ の地震（最大震度3）が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、 $M6.0$ 以上の地震がまれに見られる。1938年6月10日には $M7.2$ の地震（最大震度4）が発生しており、宮古島平良港に地震後10分で津波が襲来して高さ1.5m（目視による最大の高さ）、栈橋の流出などの被害があった（被害は、日本被害地震総覧による）。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



宮古島北西沖の地震活動領域a内の時空間分布図（南北投影）

震央分布図
 (2000年7月1日～2026年3月31日、深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)

2007年1月1日～12月31日の地震を桃色
 2019年1月1日～12月31日の地震を青色
 2026年2月～の地震を赤色
 そのほかの期間の地震を灰色で示す。

